少年剣道教室に関するアンケート

親の会会長　五十嵐尚美

H26年度の総会も終わり、いよいよ新年度がスタートしました。皆さんお忙しい中、多数のご出席、ありがとうございました。

さて、新年度をスタートするにあたって、皆様にお願いがあります。

この少年剣道教室は、宮古郡剣道連盟の先生方と、我々親の会が力を合わせて運営していっておりますが、これから更によりよい環境で子供たちが剣道の稽古に取り組み、心身ともにたくましく育って行ける教室であるために、みなさまのご要望・ご意見をお聞かせいただきたく思います。

先生方、又は親の会のあり方など、なんでもかまいませんので、日ごろ感じている思いをお伝えください。

【以下、親の会会員からの回答です】

(1)〈定例稽古と大会遠征について〉

北小体育館が使用できる日数が減っているのに対して大会遠征の回数は増えています。

また、定例稽古の指導者が少ない現状もあり稽古不足なのに遠征する必要があるのか疑問に感じています。

大会遠征について連盟の方針をお聞かせ下さい。

〈稽古時の熱中症対策について〉

稽古時間が8時半頃まで延長されていますが、夏場の水分補給が指導者によって対応が違っています。水分補給の考え方が各指導者間で違うように感じています。それで(財)全日本剣道連盟が示しているような(剣道における暑熱環境下の水分摂取:http://www.kendo.or.jp/old/news/2005-neccyusho.html)の考えかたを指導者へ周知して欲しいとおもいます。少なくとも(財)全日本剣道連盟が通知しているように15-30分に一度の水分摂取の時間も考慮した上で水分補給時間の確保をお願いしたいです。

(2)稽古に来ても、先生方の人数がとても少なく、ほとんどけいこができないまま、終了してしまう事があります。ボランティアで引き受けていただいているそうなので、仕方ないのかもしれません。ですが、稽古できないのなら19時の忙しい時間帯に連れてくるのを迷ってしまいます。子供たち、親の会と先生方との交流をもっと深められるようなイベントを増やせたらと思います。

(3)先生方へ、率直に申し上げます。指導者の不足が大きな課題と感じます。とくに、面なしさんや、面をつけ始めの細やかな指導が必要な段階の子供たちをしっかりと継続してみてくださる先生が不在なため、ここ数年、新しく門をたたいて来てくれている子供たちの対応がうまくいっていないように思います。長い間面なしで頑張っている子もたくさんいて、なかなか面を付け始めるきっかけがつかめず、高学年になってしまおうとしている子もいます。このままでは、宮古島の剣道少年はどんどんと少なくなり、それでも続けて頑張っている子の稽古の相手も減り、団体戦の大会にも出場できなくなっていきます。どうか先生方、お力をお貸しください。

(4)先生方へ。剣道と共に人生を歩んできた先生方の体験談を子供たちに語っていただきたいです。剣道を続けてきて良かったこと。試合中のエピソード。生活の中で役に立った事。今でも忘れられない対戦etc・・・。剣道は体や技を磨くだけではなく、心も磨かれていくのだと。

(5)連盟の先生方の間で、少年剣道教室のあり方や関わり方などについての話し合いがまとまっていないように思う。先生方で統一した考え方で関わってほしい。

(6)稽古前の胴・垂れ・面付けなど、親が手助けするのではなく、高学年の子供たちに低学年の世話を任せるという方針ではどうでしょうか？子供たちの中でもいい意味での上下関係がうまれるのではないでしょうか？